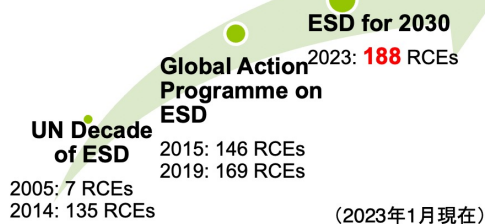


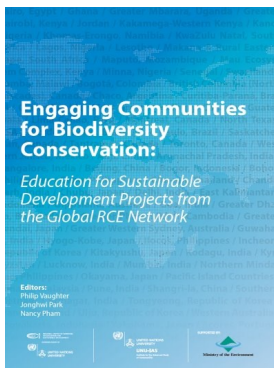
- 地域コミュニティにおいて、ESDを推進するための多様なセクターの団体・ステークホルダーから成るネットワーク。
- 分野横断的な情報共有、対話、協働を促進するためのプラットフォームとして機能し、課題解決・持続可能な地域づくりに貢献。



◆ RCE認定数の推移



◆ 生物多様性保全教育に関する実践事例



UNU-IAS (2022)



事例① RCE西シドニー広域 (オーストラリア) カモノハシの調査・保全のための市民科学の推進

背景・課題

- シドニー西部の人口増加・急激な都市化や、近年の干ばつや山火事により河川の水質が悪化。
- カモノハシ (準絶滅危惧種) 調査・記録はほとんどなく、地域住民の認知度も低い。

目的

- カモノハシの生存確認
- 地域住民による知識獲得
- 環境意識の向上
- メディア・キャンペーンの実施
- 生態系保全の支援

実践

- 西シドニー大学、キャタイ環境ネットワーク(CHEN)の研究チームによるボランティア市民科学者、学生の研修。
- 環境DNA検出技術を活用したサンプルの回収。
- カモノハシの生態分析、水質管理等。

成果

- カモノハシの生息確認が国内の関心を集め、保全や環境改善に向けた取組が促進。
- CHENが地域自治体のカモノハシ保全戦略策定に参画。
- 調査の対象地域や実施パートナーの拡大。

展望

- 河川の生き物に関する地域住民へのアンケートを通じた意識向上、環境報告書の作成。
- 先住民コミュニティとの協力促進。
- コミュニティ教育や生態系の再生プログラム実施。

事例② RCEセブ (フィリピン) 協働によるマングローブの再生・保全

背景・課題

- 豊かなマングローブが海岸沿いの住民の暮らしの基盤となり、防災的役割を果たしている他、渡鳥の生息地になっている。
- 2014年の台風で壊滅的な被害を受け再生が必要

実践

- 住民に対する研修やワークショップの実施 (植樹やマングローブへの負荷軽減のための食生活の変更、食物の栽培促進等。)
- マングローブ保全に関する教員養成用の教材やカリキュラム開発
- 初等教育の現職教員向けの研修・ワークショップの実施

実施主体

大学、行政、住民、小規模漁師連盟、小学校、生物多様性保全財団等

成果

- 幼木を1000本植樹(+台風の被害を免れた200本)
- 食生活の変更、ガーデニングの促進によるマングローブへの負荷の軽減
- 台風で根絶された種の再生
- 渡鳥の数が回復 (2020年-2014年以前比68%)
- マングローブ保全のカリキュラムが正式に大学の教員養成課程に組み込まれた他、教材は小学校で読解力向上のため活用されている